

# 沖繩型金型

## 芽吹く技術

〈7〉

自走車以上、軽自動車未満（盛順理事長）が、業態を超え、このサイズを想定した電動機を動力とした電気自動車（EV）の「超小型（マイクロ）EV」が注目されている。沖縄の製造業発展や、環境型社会構築に向け、生活様式の変化をもたらすとの期待からだ。

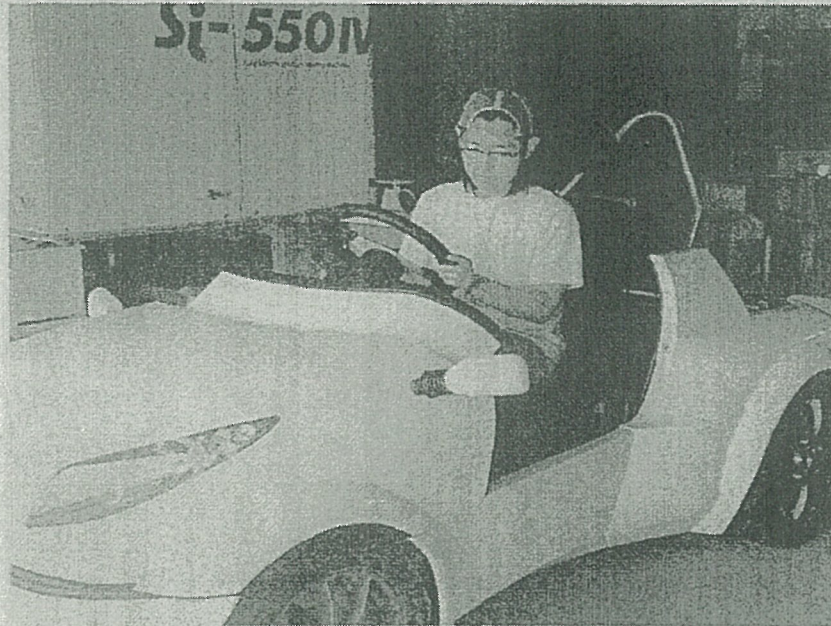
# EV製造

上

低炭素社会の実現へ向け、世界的にEV普及が促進されている。中でも1〜2人乗りのマイクロEVは、観光や公共交通補完、高齢者や子育て世代の都市部での移動支援などの観点から開発が進む。

県内では、社団法人ものづくりネットワーク沖縄（金城）は、県金型技術研究センターと素形材産業貸工場に同居している企業に加え、車体、タイヤ、シート、組み立てといった一連の工程を自動車

## 「超小型」普及に挑戦



マイクロEV第1号車両。ものづくりネットが開発製造に取り組むうるま市

整備工場、太陽光発電業者、首里織制作者らさまざまな業態が連携しつくり上げた。

4月から本格的な活動を始めたものづくりネットは、製造業間におけるネットワークを主とした新しいものづくりは、金型をはじめ他の産業に

を模索。マイクロEV製作の取り組みを引き継いだ。製作に携わる企画開発部の松田尊氏は「モーターとバッテリー以外は県内業者を活用した。」

## 業態超え技術開発

大きな波及効果を生むだろう」と新ジャンルへの挑戦意義を強調する。

ものづくりネットは、地域のニーズに特化したマイクロEVの開発を進め、県内製造業の強化につなげたい考えだ。「観光地での運用や農業時の活用など、用途を限定すればマイクロEVの活躍できる場は多いはずだ。利用者の要望に応える専用デザインなどで勝負していきたい」と松田氏は力を込める。

普及拡大への課題となる価格については、日進月歩であるバッテリーの技術進展に期待するほか、サスペンションなどの設計を独自に進める方針。ものづくりネットは用途に応じた価格バリエーションを豊富にそろえることで、製造普及を図ることを展望している。

（外間崇）  
（水一金躍掲載）